町史編さん室だより vol.33

小坂に人が住み始めた頃

町史編さん委員長　谷地　薫（原始･古代担当）

「町史編さん室だより」№10 や №19 では、東北縦貫自動車道の路線変更や小坂インターチェンジ（IC）建設について詳しく紹介されています。小坂の現在・未来は高速道路なしには考えられませんが、小坂の過去もこの高速道路建設によって飛躍的に解明が進みました。

路線変更により町中心部西側の標高 220m前後の台地を通ることになった高速道路。そこは遺跡の宝庫です。建設予定地から縄文、弥生、平安時代の遺跡が 14 か所発見され、工事前の昭和 57 年・58 年（1983）に発掘調査されました。昭和 63 年・平成元年（1989）には小坂 IC 予定地で、はりま館遺跡の発掘調査も行われ、合わせて 82 軒の縄文時代竪穴（たてあな）住居跡が発見されました。今回は、小坂に人が住み着き始めた頃の様子を発掘調査成果から紹介します。

小坂町内で出土した土器で最も古いものは、現在小坂パーキングエリア（PA）になっている大岱Ⅰ遺跡から出土した縄文時代早期末（6500 年前）の土器です。次いで、縄文時代前期初頭（約 6000 ～ 5700 年前）の土器が小坂 IC のあるはりま館遺跡、そのすぐ北の横館遺跡、小坂 PA のやや北にある大岱Ⅲ遺跡から出土しています。小坂の地に人間が足を踏み入れた時期は約 6000 年前頃ということになります。これらは土器片の発見だけで竪穴住居跡はなく、人が定住していたわけではないようです。

最も古い竪穴住居跡は、はりま館遺跡で見つかった縄文時代前期中頃（約 5500 年前、円筒下層 a 式土器）の２軒です。小坂での定住の始まりです。小坂 IC 上り流入車線のループでラジオ塔が見える辺りと、料金所と県道丁字路交差点との中間点辺りに各１軒の竪穴住居が営まれ、それぞれ５～６人の家族が住んでいたと思われます。彼らは竪穴住居を建て替えながら 100 年近く、次の円筒下層 b 式土器の時代まで定住していました。

その後、円筒下層 c 式土器の時代になると、居住地は IC 上り流入車線付近の１か所になりますが、竪穴住居２～３軒からなる小さな集落がさらに 100 年以上も継続しました。その間、竪穴住居の規模を拡張する建て替えも行われています。最大の竪穴住居跡は、長径 12.6m、短径 8.4mの楕円形で、床面積は約 79.5 ㎡（約 49 畳）、深さ約１mの竪穴を掘り上げ、その土や石を周囲に土手のように盛り上げた造りでした。次の円筒下層 d 式土器の時代になると、この場所から南に離れた、本線下り出口付近にも竪穴住居２～３軒の集落ができています。はりま館遺跡は、縄文時代前期を通して安定した居住環境があり、人口も増加したのでしょう。

縄文時代前期の土器や石器は、小坂川の左岸、標高約 230m前後の台地上にある大谷地、元山、内の岱の遺跡からも出土しています。発掘調査されていないので詳細は不明ですが、はりま館遺跡と同じ頃から、対岸の台地上でも人々の定住が始まり、小さな集落が営まれていた可能性があります。

小坂に定住した縄文時代前期の人はどこから来たのか？。それは、大館市釈迦内で縄文時代早期（約 7000 年前）の集落跡が、鹿角市錦木でもその頃の土器が発見されていることが語ってくれます。すでに近隣で暮らしていた人々が、縄文時代早期から前期にかけて、温暖化が進み植生や動物相がより好適となっていく中で活動範囲を広げていき、小坂の地に足を踏み入れ、やがて定住に至ったと考えられます。

令和３年度 康楽館歌舞伎大芝居 公演中止のお知らせ

「令和３年度　康楽館歌舞伎大芝居」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、今年度に引き続き公演の中止を決定しました。

開催を楽しみにしていた皆さんには、誠に残念ですがご理解いただきますようお願いいたします。

■お問い合わせ先
観光産業課観光商工班（TEL29－3908）

令和３年度広報こさか・小坂町ホームページに広告を掲載してみませんか

◎広報こさか
- ■１　枠　3,000円（税込み）
- ■サイズ　縦46mm×横85mm　※２枠まで
- ■令和３年４月号から募集します。
- ■掲載期間　１か月～３か月
- ■先着順となります

◎小坂町ホームページ
- ■１　枠　3,000円（税込み）
- ■サイズ　60×150（ピクセル）
  容量は20KBまで　※１枠
- ■掲載期間　１か月～６か月
- ■随時募集しています

ご不明な点はお問い合わせください。

■申込み・お問い合わせ先
総務課総務管財班（TEL29－3905）